

船舶事故調査報告書

平成26年10月23日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	栈橋損傷
発生日時	平成26年3月3日 07時34分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港玉島ハーバーアイランド 水島港玉島防波堤灯台から真方位104° 1,920m付近 （概位 北緯34° 29.5′ 東経133° 41.0′）
事故調査の経過	平成26年4月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 引船 ^{なると} 鳴門丸、287トン 134137、深田サルベージ建設株式会社 40.60m×9.80m×4.59m、鋼 ディーゼル機関2基、2,353kW（合計）、平成5年7月2日 B 台船 D-102、約953トン なし、宗田造船株式会社 50.00m×18.00m×3.00m、鋼 機関なし、1996年（建造年）
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 59歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和63年4月12日 免状交付年月日 平成22年2月18日 免状有効期間満了日 平成27年4月26日
死傷者等	なし
損傷	A なし B なし 栈橋 鋼管杭が凹損
事故の経過	A船は、船長Aほか3人が乗り組み、作業長Bほか作業員9人及びA船から移乗した3人を乗せたB船の右舷船尾部をA船の左舷側に横抱きにして引船列（以下「A船引船列」という。）を構成し、水島港の玉島ハーバーアイランド東岸の栈橋（以下「本件栈橋」という。）にB船を船尾着けで着栈させるため、船長Aが、操船に当たり、本件栈橋沖でA船引船列を北方に向首した態勢で行きあしを止めた。

	<p>作業長Bは、船長AにB船の船首を北方に向け、船位を維持するように伝え、作業員が、B船の右舷船尾から送った係留索1本を棧橋に取った後、B船の船首と本件棧橋北方に投下されていた錨の錨索とを繋ぐ作業を始めた。</p> <p>船長Aは、B船の船首を北方に向け、船位を維持しようとして操船したが、A船引船列は、西方に向かう潮流に圧流されて左回頭を始め、平成26年3月3日07時34分ごろB船の左舷船尾が本件棧橋に衝突した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の初期、潮流 西流約0.3ノット、波高 約0.2m</p>
その他の事項	<p>A船の喫水は、船首約3.6m、船尾約4.1m、B船の喫水は、船首船尾共に約1.09mであった。</p> <p>船長Aは、B船を横抱きしての着棧作業の経験は50回以上あった。</p> <p>A船にはゴムフェンダーが、B船にはタイヤフェンダーが設けられていた。</p> <p>A船は、推進器がB船の船尾よりも後方になるようにB船を横抱きしていた。</p> <p>A船がB船の横抱きに使用した索は、ヘッドライン（直径110mm）、船首スプリング（直径80mm）及び船尾ブレストライン（直径80mm）であった。</p> <p>B船から本件棧橋に送った係留索は、直径65mm、長さ約30mであった。</p> <p>着棧のための作業計画では、直径50mm、長さ約50mの係留索を使用する予定であったが、同索は準備されていなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>A船引船列は、水島港の本件棧橋において、B船を船尾着けする作業中、B船の右舷船尾から送った係留索を本件棧橋に取った後、B船の船首と本件棧橋北方に投下されていた錨の錨索とを繋ぐ作業を行っていたところ、西方に向かう潮流に圧流されて左回頭を始めたことから、B船の左舷船尾と本件棧橋の鋼管杭が衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、A船引船列が、水島港の本件棧橋において、B船を船尾着けする作業中、B船の右舷船尾から送った係留索を本件棧橋に取った後、B船の船首と本件棧橋北方に投下されていた錨の錨索とを繋ぐ作業を行っていたところ、西方に向かう潮流に圧流されて左回頭を始</p>

	<p>めたため、B船の左舷船尾と本件棧橋の鋼管杭が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>船舶所有者は、本事故発生後、事故の検討を行い、係留作業のリスクアセスメント作業手順書を作成し、関係者全員で打合せを行うこと、また、同手順書に使用機材の細部の記載を行い、事前に現場で確認してから使用することとした。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台船の船首と事前に落下されている錨の錨索を先に繋ぐ作業手順も検討すること。